



県指定天然記念物

東平寺のシイノキ樹叢^{じゅうそう}

溪谷を渡る風に木々の緑がそよぐ
この季節、JR名松線の比津駅に降



り立つと、雲出川の水のきらめきが
一層まぶしく目に飛び込んでくる。

駅から東に向けて多気地域へ抜ける比津峠への道を300メートルほど進むと、左手の山の中腹にある東平寺の境内に、大きく枝葉を伸ばしたシイノキの巨木が目に入る。

県の天然記念物に指定されているこれらの木々は「スダジイ」と呼ばれる種類のシイノキで、新潟県以南の列島に広く分布する、日本の暖帯性常緑広葉樹林を代表する種類の樹木である。東平寺の境内には、幹周り4～6メートル、樹高10メートルを越える9本のシイノキが、大小の石仏や五輪塔を覆うように並んでいる。6月には、杉や竹林に混じり、遠くからでも分かる薄黄色の花を一面に咲かせ、秋には大きな実（ドングリ）を付ける。ドングリは昔から貴重な栄養源で、人間だけでなく森に生きる多くの動物たちの貴重な食料であった。

スダジイの森林は、かつては美杉町川上付近まで雲出川沿いに広く分布していたといわれるが、現在は植林や耕地となり、居住地化も進んだ影響で、この地域でも自然のままの状態に残っている場所はほとんどなく、この樹叢が当時の自然の植生を知るうえで貴重な資料となっている。

木々の緑が一層濃くなるこれからの季節、太古の自然を感じながら木陰に涼を求めているいかがであろう。

（「広報津」平成19年7月1日号）



大きく枝葉を伸ばすスダジイの木々